

水道設備充實の必要

東京市水道局長

小 川 織 三

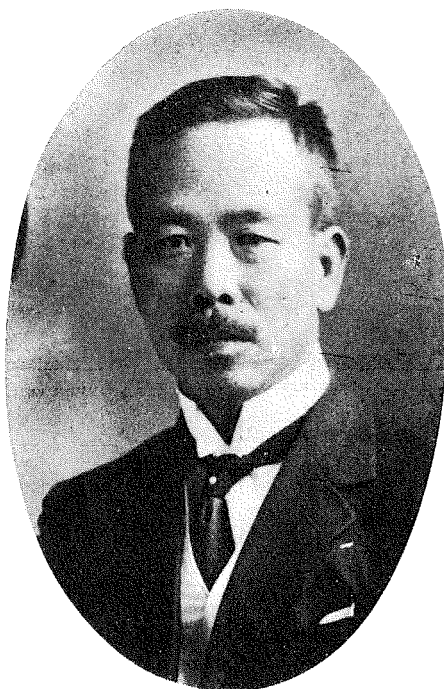
江戸時代の昔から約三百年、東京市民が養はれて居る多摩川の水は、如何にも清冽で、水源として世界でも誇るに足るものとおもふ。唯從來は徳川 四代將軍 (家綱) 時代に開鑿された一筋の玉川上水路で水を引ひて居る爲め、近年の如く水の使用量が増加して來ては、冬季洪水期には原水が不足する、之れを補ふ爲め、平素多摩の本流に水の潤澤にあるときに引入れて貯へて置く必要がある、村山貯水池は即ち今度其目的の爲めに造つたのであつて、計畫當時の豫想では、之れで原水は當分支障なしを考へられて居たのであるが、震災の經驗に鑑み、堰堤の維持上水位を或程度迄低下せしむる必要あり、又近年屢々經驗する洪水時に於ける多摩川の流量と貯水池の調節能力との關係から見て、此貯水池があつても原水はまた不足の虞れがある爲め、引續き其充實策を講じつゝある有様である。

昨年ボストン市の水道を視察したとき、現在の使用量から計算して見るに、約二ヶ年分

の貯水量がある、説明によるに給水區域擴張の準備だといふことであつた、又倫敦でもテムズ河沿岸には水道の貯水池が幾つもあるが最近リットルトンといふ處に平地に堤防を引廻して丁度村山貯水池位の容量の池を造り、昨年春其使用を開始した、巴里にも五十里斗り距れた處から湧水を引用する大計畫がある、其他何處へ參つても水道の充實に就ては大に力を盡して居ることを見受けたのである。

日本も近年水道が段々普及する、其趨勢は誠に喜ばしいが設備の充實といふ點に於ては遺憾乍らまだ不充實な處が多いやうにおもふ、市民の生活に最も密接なる關係にある水道の如きは常に市の發達に先んじて設備を充實せしむる位の覺悟がなければならぬ、夫れが却ていつも遅れ勝ちになるのは、畢竟富の程度とい

ふ問題に歸着するに、おもふが、苟くも帝都の水道が水不足や斷水に脅かされるやうな不面目のないやうにしたいものである。



Mr. O. Ogawa, Director
of the Water Department
of Tokyo City.

東京市水道局長
小 川 織 三 氏